

女子は庭田が14位、男子は田山が12位

ITUワールドカップ石垣島大会速報

好調フェルナンデスと3連覇のアトキンソンが優勝

4月15日(日)、沖縄県石垣市の登野城漁港特設コースで、国内第1戦となる2007NTTトライアスロンジャパンカップ・ITUワールドカップ石垣島大会が開催された。ワールドカップ2戦目で、日本のシーズンの開幕戦となる本大会は海外の選手からも人気も高く、毎年世界各国から強豪が集う。

午後1時10分スタートの女子は、古谷あかね(トヨタ車体)が得意のスイムでサラ・マクラティ(アメリカ)に続いて1周回目を2位で通過。スイム終了時には順位を落としたものの、バイク1周回目にトップに立ったが、2周回目の途中からアナベル・ラックスフォード(オーストラリア)らに追いつかれると徐々に順位を落とした。バイクは中盤、三つの大きな集団となるが、ラックスフォードはそのまま第1集団のトップで競技を終え、ランにつながた。

ランに入ると、ムールラバ大会の優勝者エマ・スノーシル(オーストラリア)、ワールドカップ13勝で昨シーズンだけでも6勝をあげているバネッサ・フェルナンデス(ポルトガル)、昨年度のこの大会の覇者デビー・ターナー(ニュージーランド)が猛追し3周回目からはこの3名でデッドヒートが繰り広げられた。

日本の庭田清美(アシックス・ザバス)、関根明子(NTT東日本・NTT西日本)、上田藍(シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター)も、ランで良く追いあげ、着実に順位を上げたが、ついにトップ集団には追いつかなかった。

結果は最後のランでスノーシル、ターナーを抑えたフェルナンデスが優勝を勝ち取り、ワールドカップ通算14



新調されたポンツーンからスタート

庭田 清美

(アシックス・ザバス)



レースでは自分のできる限りのことはしたけれど、順位には満足していない。スイムで前の集団にいないと勝負には入れないと痛感した。今日の私集団は皆、人任せで、協力し合おうとしない。北京を目指すためには、積極的に前を追わなくてはならないのに。

関根 明子

(NTT東日本・NTT西日本)



良いところもあり、課題もあるレースだった。日本選手がランでトップ選手を追えなかったのは力の差といえばそれだけだけど、世界のレベルが上がっていると思う。バイクで前の集団に追いつけなかったのは、タイミングがつかめなかったことが原因と思う。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



女子は庭田が14位、男子は田山が12位

ITUワールドカップ石垣島大会速報

勝目の金メダルとなった。日本選手の主な成績は、庭田14位、関根16位、上田18位、中西真知子(NTT東日本・NTT西日本)30位、古谷あかね(トヨタ車体)31位、高木美里(湘南ベルマーレ)34位、大松沙央里(トヨタ車)48位、田中敬子(NTT東日本・NTT西日本・スカイタワー58)55位だった。

午後3時55分スタートの男子は、カートニー・アトキンソン(オーストラリア)がスイムをトップで上がり、そのままバイクに入ったが、1周回目にマルコ・アルベルト(エストニア)とクレイグ・ウォルトン(オーストラリア)が追いつき、この3名で第1集団が形成された。

このトップ集団はバイク最終周回まで崩れることなく続いた。日本選手は第2集団に田山寛豪(チームテイケイ)、山本良介(トヨタ車体)が入ってあとを追うが、第1集団と第2集団の差はなかなか縮まらなかった。

ランに入るとアトキンソンがほかの2選手から飛び出し、独走態勢に突入。逆にアルベルトとウォルトンは後続の選手に抜かれ、順位を落とした。

2周回目に入るとアトキンソンがリードを広げ、結局そのままフィニッシュして連覇を達成した。

「粘りのあるレースをしたい」と語っていた田山は、フィニッシュ直前まで全力で走り切り、日本選手最高位の12位でフィニッシュした。山本も田山を追って14位と健闘した。そのほかの選手は、西内洋行(西京味噌)36位、福井英郎(トヨタ車体)41位、細田雄一(ウイダー)45位、山本淳一(K's-Y・グリーンタワー・稲毛インター)57位、高濱邦晃(日本食研)59位だった。

レースの様子はフォトギャラリーでご覧になれます。



ワールドカップ14勝目のフェルナンデス



アトキンソンは、石垣島3連勝

田山 寛豪
(チームテイケイ)



ランは最初から良くなかった。腰を故障していたため、様子を見ながら走ろうと八尾コーチと話していたので、自分らしくない走りだったと思う。それでも、ずっと走ることもできなかった。走れたことに喜びを感じた。次のレースは決まっていない。

山本 良介
(トヨタ車体)



もう少し順位を上げて、なんとか10位以内には入りたかった。それでもいままでよりはスタミナがついてきたので、バイクにも余裕をもって走ることができたと思う。これからはどんな展開になっても、自分の走りができるようになりたい。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー

